

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.60 - 2013年12月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



サ

レジオ会員の皆さん、
サレジオ・ミッションの友人の皆さん！

今年、私にとって最も印象的な体験は、ルイジ・ボッラ神父ゆかりの地を訪れたことです。すばらしい宣教師であったルイジ神父は2013年2月に帰天しました。ルイジ神父は毎年、ペルーのアマゾンの森林に点在する、アシュアル族の30の村をすべて巡回し、本物の“先住民の教会”を造りあげていました。彼の言葉は、第27回総会テーマの最良の解説になると思います。「船がジェノバの港を後にするとき、私は生涯で最も美しい時を体験しました。すべてが死ぬように思われました-友人たち、故郷の大地、山々……これは、すべての宣教師が感じることなのではないかと思います。そのとき、私は主に申し上げました。『私はすべてを失いました。今、私に残されたのは‘あなた’だけです。新しい世界では、私は何もわからないからです。』そのとき、主は答えられるのです。『私はすべてである。私はただあなたのために在る』と。それは喜びの時、無限の喜びの時！ 宣教師の

召命に従うようにと、若い皆さんに勧めたいと思います。そうです、宣教師の召命は類まれな賜物です！」

どうぞ2013年のご降誕と新しい年を、実り豊かに祝われますように！



Václav Clement

宣教師
ヴァツラフ・クレメンテ神父

前線へと向かわない管区は 病気になります！



会憲の第6条は、教会における私たちの役割を指し示しています。「サレジオ会への召命は、わたしたちを教会の中心部に据え、教会の使命に全面的に奉仕させる。わたしたちは、ドン・ボスコから受けついだ目標に忠実に従い、青少年、とりわけ、より貧しい青少年を福音化し、使徒的召命を特別に配慮し、特に広報を利用して庶民環境の中で信仰の教育者となり、福音を知らない国民に福音を告げる。こうして、教会がわたしたちをとおしても、『救いの普遍的な秘跡』として世に現れるよう、キリストのからだである教会の建設に協力する。」

この条項は、すべてのサレジオ会員、共同体、管区にあてはまります。会の目標の達成は、皆の責任です。青少年、特に貧しい青少年の教育と福音化、使徒的召命、庶民層の信仰教育、特に広報の手段を用いて、そしてまさに、福音を知らない人々に福音を告げること、これらの働きにこの条項はあてはまります。したがって、サレジオ会のこの第4の役目を果たし、宣教召命を呼び覚ますのは、宣教顧問ただ一人の仕事ではないのです。私たち皆もその責任を負います。

フランシスコ教皇が警告する教会にとっての危険に、私たちの管区もさらされています。自らのうちに閉じこもることです。自らと、自らのニーズを中心として閉じこもる管区、通りへと出かけて行くことなく、前線へと向かわない管区は、病気になります。たくさんの召命がありながら自分たちのことしか考えない管区があります。他方、宣教師を受け入れながら、派遣もしている貧しい管区もあります。教会とサレジオ会は宣教への取り組みと召命の賜物の交流を通して新たにされます。国際的な共同体が大切なのはそのためです。国際的な共同体は、会が生きているあかしです。なぜなら、惜しみない広い心と宣教のための機動性がそこにはあるからです。

養成顧問 フランチェスコ・チェレダ神父
(第2回ヨーロッパで働く宣教師会議でのあいさつより抜粋)

第27回総会が近づく中、また6か年の期間がまもなく終わろうとする今、カリエロ11の制作に携わってくださった次の方々に感謝します：ルチアノ・アルカレーセ、アンジェロ・ピズ神父、ルネ・ダシー、アルフレド・マラヴィラ神父、ヒラリオ・パッセーロ神父、ルネ・サガース、アガスティン・パチェコ神父、ディオニシオ・パチェコ神父。



ジプシーの人々の中で見いだした、私の宣教師としての召命

私

の宣教師としての召命は、長い時間をかけて育まれました。最初の招きは若いころにさかのぼります。宣教師、聖ダミアン・デ・ヴースター（ダミアン神父）について知ったときです。そのとき私は、最も弱い人々と共にいるように呼ばれていると感じました。サレジオ会員としての生活の中で、その後の歩みはゆっくりとしたものでした。何年も後、サレジオ神学院の院長だったとき、私は神学生たちと一緒にブラチスラバから35キロのところにある村を訪ねました。400人ほどの口マの人々が野原に家を建てて住んでいました。マザー・テレサの会のシスターたちが、すでに子どもたちのためにいろいろな活動を始めていました。私たちサレジオ会員にとっては、小教区の教会で口マの子どもたちのために主日のミサをささげたことからすべて始まりました。

私の宣教師の召命の次の一步は、子どもたちの洗礼準備のために親の勉強を見ることでした。私たちは古い保育施設の部屋をいくつか借り、必要に合わせて改装しました。オラトリオ、聖堂、学校へ行く準備として子どもたちの勉強を見る教室など。最初私は、親たちが私たちの“センター”に来ると思っていましたが、結局、それぞれの自宅を訪ねることになり、彼らの家で最初の“カテケーシス”を始めました。少しずつ、良い家族のグループと知り合いになりました。私たち（サレジオ会員）のほか、サレジアン・シスターズ、大学生、ほかの修道会の神学生もそこで働くようになりました。数年後、サレジオ会の神学生数が減り、神学生たちはクロチェッタの神学校（トリノ）に送られることになりました。最後には、私が口マの人々の中で働く唯一のサレジオ会員になりました。

今、私は、コジチェ市近郊のサレジオ会共同体に住んでいます。コジチェ市には5千人ほどの口マの人々が暮らしています。私たちが口マの人々の中で働いてきたことにより、社会的な意味でも、キリスト教の観点からも異なる文化があるということに、私は目を見開かされました。彼らと共にいて、今日、私たち“効率と権利”の文化の人間が理解できないことを、ジプシーの人々が守ってきたことに気づきました。大まかな説明になってしまいますが、それは、この世界が私たちの所有物ではなく、皆のものだということ、そして私たちは所有者ではなく、巡礼者にすぎないという理解、家族として、グループとして共にいる喜びなどです。私にとってこれは、福音のための肥沃な土地です。

口マの人々の大多数は、洗礼は受けていますが福音化されていません。子どもたちに洗礼を受けることを望みますが、その後は何もありません。しかし、信仰に開かれた人や家族にも私は出会いました。私にとって最大のチャレンジは口マの文化の中核にあるものをよく理解し、“怠け者”、“ずる賢い”というレッテルを貼らないことです。種を蒔くことのできる領域を見つけるのに、忍耐が必要です。口マの人々と歩みはじめて8年、ジプシーの人々の中でサレジオ会員としての生活を真実に生きることができるとを発見しました。それは経済的な意味だけでなく、宗教的観点からも貧しい人々の中で生きることです。その中には、キリストを自分の人生にまだ受け入れていないという意味での貧しさも含まれます。

まさにジプシーの人々の中で、私は宣教師の召命を見いだしました！

スロバキア出身、スロバキアのジプシーのために働く宣教師
ヨセフ・ゼンベラ神父



Video

西アフリカフランス語圏管区長ファウスティノ・ガルシア・ペニャ神父インタビュー
仏語、字幕英語 <http://vimeo.com/79874272>



サレジオ会の宣教の意向

北ヨーロッパ地域の若者のため

ヨーロッパの若者が、サレジオ家族が暮らし働く場で、現代にキリストのみ顔を映し出すキリスト者の共同体と出会うことができますように。

プロジェクト・ヨーロッパは、内からの再生の力を必要としています。内からの再生は新たな福音宣教を通して起こり、キリスト教的価値に基づく真のいのちの根源を再発見させるものです。表向きとは裏腹に、ヨーロッパの若い世代は、生きることの意味、霊性、深く物事をとらえることを求めています。サレジオ家族の教育活動を通して、若者たちはヨーロッパの未来の希望になることができます。サレジオの環境における宣教ボランティア活動への取り組みや、青年グループ（サレジオ青少年運動）への積極的参加は、生きた教会の顔を再発見させてくれるでしょう。



Cagliari 11 (カリエロ11)の全バックナンバー: <http://salesians.jp/library/cariero>

